

初心を忘れない

香川県

一宮剣道スポーツ少年団

小学6年 秋山 諒 太

四年生の夏休み、一年生の妹が友達に誘われて剣道に興味を持ったので、僕も渋々稽古を見に行きました。最初は見学だけのつもりでついて行ったのですが、六年生が「楽しいよ、一緒にやろう！」と優しく素振りを教えてくれたので、不安な気持ちのまま真似をして振ってみました。竹刀が当たると痛そう、声が怖い、先生が厳しいかもしれないと不安ばかりでしたが、みんな優しく楽しいし、体を動かすと気持ちよくて、やってみたいと思うようになりました。早速次の稽古から参加して、あいさつや所作、足さばきを六年生に教わりました。

稽古は、コロナで制限がある中でしたが、一つ一つのことを何度も練習しました。そこでうまくできななかったことを繰り返してできるようになり、次にまた新しい技を教わるのが楽しくて、稽古を頑張る原動力になりました。初めて面や胴を着けて竹刀を振った時の重さや振りにくさ、当たった時の感触は、今でも覚えています。

小学生最後の今年の夏は、錬成会や大会がたくさんあって、県外の試合にも参加しました。合同チームを組んだ時は、他の団に友達ができるのが励みになりました。毎日暑くてしんどかったけれど、団のみんなと声を掛け合い乗り切ることができたので、自信になりました。試合があった日には、お父さんと一緒に動画を見て、アドバイスしてもらいました。相手のスキをお父さんと見つけて、それに対する稽古を一緒にすることも楽しかったです。五年生までは、コロナの影響で錬成会に参加する機会がなかったけれど、今年はたくさん参加できました。最初は緊張して固くなっていたけれど、何回も試合を重ねる内に、単純に強いだけでなく、所作のきれいな人や、自分が目指している剣道をしている人の名前を覚え、意識するようになりました。試合でも思いっきり動ける

ようになって、技が決まることも増えました。悔しい時も嬉しい時もあったけれど、こういうことができるようになりたい！という思いは、日に日につのっていきました。

剣道を通して学んだことは三つあります。一つ目は、「やってみよう！」の精神でトライすれば、なんとかなるという事です。やってみて、思っていたことと違う事もあるけれど、挑戦すらしないと、やればよかったと後悔ばかりが残って、何も学べません。剣道を始めたことこそが、僕にとってやってみて良かったことです。失敗をすることも、自分が成長するための一歩にできます。

二つ目は、すぐに成果が出なくても、コツコツ続けることが大切ということです。ただ稽古をするのではなく、上手になるためにはどうすればいいか、試合で使えるようにするためにはどうすればいいのかを考えて、工夫して稽古をすることが必要だと思いました。

三つ目は、感謝の心です。剣道では、稽古中に何度も「お願いします。」「ありがとうございました。」を声に出して言います。指導してくださる先生方がいて、一緒に稽古する仲間がいて、最強の応援団であるみんなの家族がいて、僕は思いっきり剣道ができます。

「剣道は心なり 心正からざれば 剣また正からず 剣を学ばんと欲すればまず心より学ぶべし。」

僕の団では、黙想の前にこの武道訓をみんなで言います。そして、試合用の手ぬぐいにも「剣心一致」の文字が書かれています。剣道は、普段の行動や姿勢がそのまま反映されると思います。試合に勝つ、負けるだけでなく、昨日の自分と比べて、どこが成長できたかを考え、積み重ねていきたいです。

声出しに経験年数は関係ありません。僕の得意分野です。しんどい稽古の時こそ「ファイト！」と、率先して大きな声を出して自分を奮い立たせ、稽古は真剣に、試合は楽しく全力で、仲間と一緒に剣道を続けていきます。

剣道に出会えて本当に良かったです。